

## まえがき

日本らしい自然—それは、里山と表現される風景で代弁されるような森があり小川が流れ、田んぼや畑があつて、秋には赤とんぼが飛んでいる風景が浮かびます。この里山は、人間の生活が営まれることで、生物が多様化した生態系を持っています。しかし、近年の里山は、地域の若年層が流失し樹林や草地に人手が掛けられなくなり、大型雑草の蔓延や耕作放棄地も増加し、さらに住宅地の造成などの開発で減少してきています。

一方ゴルフ場は、ゴルフプレーを行う場所ですが、プレーヤーが気持ちよくプレーをするためにフェアウェイやグリーンなど芝草を管理するとともに樹林もゴルフ場面積の半分近くあり、さらに池やクリークもあつて、プレーヤーがプレーの合間に、ふと見る景観に心休まる緑地になっています。残念ながら、ゴルフ場は、その管理を含め自然破壊の要因という考え方も所々で聞かれます。しかし、このゴルフ場が緑地として管理されることが、里山が減少した今、広域緑地環境として大きな意味を持っています。人に管理された里山的環境を維持するゴルフ場は、生物種の多様性も持ち合わせています。このような観点からゴルフ場の持つ広域緑地としての地域的意義を見直す必要があります。

しかしながら、プレーを行う芝草やゴルフ場の景観を管理する場面において種々問題が発生しております。特に長期的な地域環境として気候変動、温暖化、林や耕作地の管理放棄や乱開発により雑草、害虫、獣害などに変化が生じ、その対策に苦慮しながらゴルフ場管理を行っていることが現状です。

本日のシンポジウムは、3題の講演により、ゴルフ場が保有する地域の広域緑地としての意義を見直すとともに様々な環境変化に対する管理について、幅広い知見から検討を行います。

本日参加された皆様が、ゴルフ場の広域緑地としての価値を再確認し、様々な環境変化を受けているゴルフ場の継続管理を地域・変化という広い空間軸と時間軸的視野を持って科学的に再検討する契機になることを期待します。

2015年11月

特定非営利活動法人緑地雑草科学研究所  
第7回シンポジウム運営委員長 清水等

# 目 次

## <講演>

地域環境の劣化とゴルフ場の役割……………	1
----------------------	---

伊藤幹二（特定非営利活動法人緑地雑草科学研究所）

多様な生態系による多様なゴルフ場を……………	16
------------------------	----

田中淳夫（森林ジャーナリスト）

変貌するゴルフ場雑草問題と対応への考え方……………	24
---------------------------	----

伊藤操子（京都大学名誉教授）

## <アンケート調査報告>

「関西地区ゴルフ場最近の管理課題」に関するアンケート調査報告

特定非営利活動法人緑地雑草科学研究所……………	34
-------------------------	----